

現状

- ・市民活動を支援するNPOや企業によるCSR活動、助成金はたくさんあるため、新規性が必要
- ・水に関わるものの多くは、環境保護、環境教育、自然体験活動または専門的な学術研究に対するものなどに偏りがちである
- ・「水道」「下水道」に直接関係するような一般向け助成金や活動支援団体はない（基本は行政がやるもの、と言う認識が社会的に強い）
- ・NPOなど市民団体に対する助成金はあるが、小～高校のクラブ活動に対するはまだ数が少なく、あっても認知度が低い

資金調達の枠組みのコンセプト

市民に対して、広く「下水道」の役割とその効果・影響力を

正しく知ってもらうための活動を支援する

資金調達の枠組みの新規性とエントリー要件

- ・ 「下水道」に関するものであれば活動のジャンルは問わない
例) 全国のマンホール写真集やMAPの作成
下水道処理水に着目した生態系の経年変化調査
下水道処理水が流入する海洋の産業への影響調査
地下の下水道管をARで見えるようにしたスマホアプリの開発
- ・ エントリー対象者の年齢、所属は問わない
「下水道」に関係するのは全市民であり、これは年齢や所属に左右されない。
このため純粋に活動に対する評価で採用・不採用を判断する。

1. 公募・募集のしくみについて

【課題】

- ・活動選定時の公平性、公正性を保つためにエントリー数を一定数以上にすること
- ・募集にあたって幅広い分野の活動者がエントリーできるような枠組みとすること

【実施案】

- ①募集枠を以下の2つ用意し、それぞれに上限金額を決める。
 - ・イベントに対する資金提供枠 上限金額 20万円（例）
例）水辺の一斉調査、出前授業、夏休み水遊びイベント...
 - ・継続的活動に対する資金提供枠 上限金額 100万円（例）
例）数年に及ぶ流域の生態系調査や、水質調査など...
- ②それぞれの募集枠ごとに、対象となる活動の選定要件を提示して募集する。
 - ・イベントに対する資金提供枠
例）「下水道」の単語がイベント案内や、開催概要に記載されていること、など
 - ・継続的活動に対する資金提供枠
例）「下水道」との関連性が科学的な検証に基づき説明されていること、など

2. 募集活動の実施、企業からの資金受領と管理を行う団体/事務局について

【課題】

- ・企業からの資金受領と管理を行う団体事務局の透明性の担保
- ・募集活動から選考までの公平性、公正性の担保
(どのような団体が主催で募集し、どのような選考基準で支援団体の選定をおこなうのか)
- ・これに選ばれることによる社会的影響度、広報的効果

【実施案】

- ・募集活動と資金管理を行う団体は協会や財団法人などとする
- ・選考は特設委員会等を設置し、選考委員は民間、学識者、行政から幅広く募る
- ・企業HPへのバナー広告の掲示、SNSなどでの発信、情報共有サイトへの掲示
- ・本枠組みのHPに活動者HPのリンク作成、CSRページへのリンク、CSRレポートの掲載など、資金提供元企業のPRページの構築

3. 資金を支出する企業の視点

【課題】

- ・資金提供先（資金管理団体）の公正性、透明性の担保
- ・資金提供経緯と経路の明示化（エビデンスの保管）
- ・CSR的効果の明確化（社名および資金提供協力による効果の掲示）
- ・支援企業として入ることによる社会的影響度、広報的効果

【実施案】

- ・資金管理団体の設立、運営を審査する機関や機会が定期的にあること
- ・資金提供にあたって企業が必要とする書類や資金の振り込み、受領までの流れのエビデンスがきちんと残る業務フローとすること（監査時に提出できるレベルもの）
- ・企業からの申し出で、CSR活動として資金だけでなく、自社製品や、人材なども提供の意思がある場合はそれを受け入れられるよう協力の形も様々用意する
- ・本枠組みのHPへの企業リンク作成、CSRページへのリンク、CSRレポートの掲載など、資金提供元企業のPRページの構築

- 国交省 循環のみち下水道賞
- http://www.mlit.go.jp/mizukokudo/sewerage/crd_sewerage_tk_000085.html
- みんなの循環のみち下水道 環境教育ポータルサイト
下水道環境教育の支援制度
- <http://www.jswa.jp/kankyo-kyoiku/support/index.html#H27r01>
- 日本財団 CANPAN FIELDS
- <http://fields.canpan.info/>